



7月31日 日本酪農危機突破 総決起大会より

1 ページ	表紙
2 ページ	第14回通常総会
3 ページ	第13回乳質共励会及び 第4回環境整備・美化コンクール表彰
4 ページ	東西南北（各支所）
5～6 ページ	米国ルーサン現地リポート
6～7 ページ	部課だより（業務部）
8～9 ページ	H26「後継牛安定確保対策事業」集計結果
10ページ	部課だより（生乳販売課）
11ページ	日本酪農危機突破総決起大会
12ページ	理事会だより、平成27年度支所事業、 市場成績、本所事務所移転のお知らせ

「キャラクター笑味ちゃん」



みんなのよい食プロジェクト



# 第14回通常総会開催



坂主組合長挨拶

6月26日、コンセーレにおいて栃木県農政部畜産振興課杉本課長を来賓に迎え第14回通常総会が開催されました。

冒頭の組合長挨拶では、一昨年からのアベノミクスによる円安経済の煽りを受け生産資材価格高騰が続く危機的状況の中、4月から乳価3円値上げは朗報となった。また、組合でも1〜3月の出荷乳量に対し2・5円の特別対策措置をとることができ、多少とも組合



議長団  
(左) 印南 登氏 (右) 國母孝至氏

員の一助となれた事は、皆様の努力の賜物と共に役職員が一体となり事業展開した結果と述べました。また、平成27年度は、第4期中期構想初年度となり、持続的成長を可能とする生乳生産基盤の構築を図るべく、組合員の皆様と手を携え一体感を持って組合運営に取り組む所存と挨拶をしました。議長団には印南登氏（那須塩原市）國母孝至氏（真岡市）の両名が選任され、円滑に議事を進行し



採決風景

て頂きTPPに関する特別決議を含め全議案とも可決承認されました。

議事終了後、白井副組合長の閉会宣言により通常総会を終了しました。

## 当日の出席状況

組合員数	595名
本人・代理人出席数	142名
書面議決	417名

## 主な質疑・意見要望事項

- ① 正組合員資格について
- ② アウトサイダー酪農家の対応について



農政部長賞  
植木 靖氏



知事賞  
駒場 久氏



知事賞  
大泉 晴雄氏



## 第13回乳質共励会表彰者名簿 平成27年 6月26日

表彰区分	支所名	組 合 員 名	連続賞	組合外表彰
最優秀賞	那須高原支所	大 泉 晴 雄		知 事 賞
	〃	前 田 宏 幸	3年連続	知 事 賞
	宇都宮支所	駒 場 久 幸	4年連続	知 事 賞
優 秀 賞	宇都宮支所	植 木 靖 場	2年連続	農政部長賞
	那須高原支所	(株)桃井牧場		
	〃	高 柳 智 紀		
	〃	森 弘 一	2年連続	
	〃	森 義 一		
	〃	仲 間 健 栄	3年連続	
優 良 賞	宇都宮支所	羽 田 栄 彦		
	那須高原支所	摩 庭 達 彦		
	〃	猪 瀬 良 一		
	〃	斎 藤 一 実		
	〃	田 代 和 一		
	〃	室 井 元 明		
	〃	高 久 秀 雄		
	宇都宮支所	小 林 幸 雄		
	那須高原支所	平 山 金 男		
	〃	後 藤 浩 城		
	〃	小 針 結 修		
	〃	人 見 寛 昭		
	〃	高 野 廣 一		
	〃	田 野 光 司		
	〃	中 村 信 夫		
	宇都宮支所	箕 輪 長 二		
	県南支所	井 沢 真 也		
	那須高原支所	杉 本 茂 雄		
	〃	藤 田 一 義		
	〃	要 田 康 久		
	宇都宮支所	皆 川 美 範		
〃	小 口 和 則			
〃	松 井 実 透			
県南支所	舘 野 透			

以上、34名の方々が第13回乳質共励会において特に優秀な成績を収められました。

通常総会に先立ち、乳質共励会並びに環境整備・美化コンクールの表彰が行われなした。受賞された方々には、敬意を表しお祝い申し上げます。

# 第13回乳質共励会表彰 第4回環境整備・美化コンクール表彰

## 第4回環境整備・美化コンクール表彰者名簿

平成27年 6月26日

表彰区分	支所名	組 合 員 名	備考
優 秀 賞	那須高原支所	小 松 良 吉	
	〃	岡 田 建 史	
	〃	高 井 信 二	
	〃	中 島 隆 利	
	〃	関 正 夫	4年連続
	〃	(有)ウェルシーファーム	4年連続
	〃	(株)桃井牧場	4年連続
	〃	伊 藤 高 行	4年連続
	〃	(有)那須高原今牧場	4年連続
	〃	薄 葉 恒 夫	
	〃	菊 地 瞳	
	〃	星 民 也	4年連続
	〃	皆 川 悦 郎	4年連続
	〃	室 井 忠 次	
	〃	中 村 一 郎	
	〃	利根川 幸 枝	
	〃	杉 本 茂 雄	4年連続
	〃	小 針 勤	
	〃	小 針 結 城	
	〃	熊 谷 貞 二	4年連続
	〃	(有)瑞穂農場	
優 秀 賞	那須高原支所	加 藤 拓 央	
	〃	高 柳 智 紀	
	〃	高 塩 久	
	〃	印 南 登	
	〃	要 田 康 久	
	宇都宮支所	植 木 靖 場	
	〃	鷹 箸 稔	
	〃	高 瀬 賢 治	
	〃	(有)マウントグリーン牧場	
	〃	佐 藤 充 則	
	〃	仲 山 日出男	4年連続
	〃	小 林 幸 雄	
	〃	駒 場 久	4年連続
	県南支所	國 母 孝 至	4年連続
	〃	(有)黒崎乳業	
〃	羽 石 智 昭	4年連続	
〃	柳 吉 成	4年連続	
〃	増 山 清 樹		
〃	海老原 哲 夫		
〃	コージーファーム(株)	4年連続	
〃	株式会社 小池		

以上、42名の方々が環境整備・美化コンクールにおいて特に優秀な成績を収められました。



# 東西南北

## 那須高原支所

### 分娩ラッシュ



元気な三つ子の子牛達！

今年5月26日、那須塩原市箕輪地区の人見浩美牧場で、ちょっと珍しい出来事がありましたので紹介いたします。人見牧場は、フリーパーソン牛舎で搾乳牛約40頭を、妻の礼子さんと夫婦二人で管理されています。

朝の搾乳後、人見さんはちょうど分娩した牛がいるのを見つけたが、その時は変わった様子はなかったが、その時が、牛舎に戻るともう一頭の子牛が産まれており、双子であることに気付きました。双子の分娩は年に何度かあるようで、この時は特に気にせず畑仕事に出かけたそうです。しかし、驚いたのは畑仕事から戻った後でした。産まれたのが双子ではなく、三つ子だったからです。さらに、三つ子の性別を確認すると全て雌という、珍しい出来事でした。

人見さんは20歳の頃、北海道で酪農実習経験を積み、その期間中にただ三つ子の分娩に立ち会ったことがあり、今回二度目になりました。産まれた直後はかなり小さく心配だったものの、その後は順調に成長し、三つ子のお母さんも無事であり、嬉しい結果になりました。今後、三つ子が健康に成長し、将来は搾乳牛として立派に活躍することを願っております。

### 女性会黒磯支部研修会

女性会黒磯支部（木村博子支部長）では、7月2日東北方面への研修会を行いました。

梅雨時期で心配された天気も、好天に恵まれた一日でした。



皆でハイチーズ

バス車内では牛舎環境調査にむけて「整理整頓」に関する研修をし、チェックシート記帳もあらためて喚起をしました。また、役員さんが準備した賞品でビンゴゲームをし、最終ビンゴ者まで読みあげ、とても盛り上がりました。

塩釜の仲卸市場にて魚介類の買物をした後、ホテル大観荘で昼食をとりました。その後松島湾遊覧船に乗り、震災時には防波堤役になったという島々を眺め、ゆったりと時を過ごしました。

帰路出発まで瑞巖寺見学と周辺散策とに分かれての行動となりました。瑞巖寺には、参道に津波到達地点の表記と、塩害を受け伐採された杉が積まれている場所があり、復興された街並みでは忘れてしまうような、震災当時の様子をうかがうことができました。

また、改修中の為、仮本堂となっている大書院内では皆さん熱心に案内に聞き入り、携帯等で間近に置かれた聖観世音菩薩や、伊達正宗公位牌などを写真に収める方もいました。

東北への研修会は震災後2度目となりましたが、活気ある松島の空気を吸い、両手いっぱいにお土産（ケース）を抱えバスから降りる表情は皆さんの笑顔であふれていました。東北の元気をもらい、これから暑い夏を乗り切る有意義な研修会となりました。

### 宇都宮支所

#### 女性会宇都宮支部 講習会開催

7月22日(水)女性会宇都宮支部（廣田純子支部長）では森久保薬品に協力していただいで講習会を行いました。

年に一度行っている講習会は第一回が「子牛・育成の栄養管理」第二回は「離乳前期の管理」第三回目を迎える今年度は「繁殖について」をテーマに開催され、回を重ねる毎に牛の成長に合わせて学んでいます。

講師には物産バイオテック(株)の深沢博之氏を招いて行いました。

主な内容は乳牛更新理由の第二位である繁殖成績の低下についてでした。その要因を多く締める周産期の疾病を防ぐための乾乳時期のエサの給与方法や個体の乳成分から見る牛の状況についてお話されました。また、その他の要因として発情発見、カビ毒の見分け方などをグラフや牛の状況、動画を交えて分かりやすく説明していただきました。

8名の参加者で終始アットホームな雰囲気が進められ、途中難しい言葉や内容についての質問にもその都度丁寧に説明し答えていただきました。

講習後の会食の時間にも話が弾み、日頃行っている作業について他の皆さんの意見を聞くなど情報交換を行いました。来年も講習会を継続していきなさいと意志を確認して講習会を終りました。



女性会黒磯支部において経営士であるご主人を助け様々な分野で仕事を担っていると思えます。その女性の能力向上と親睦を深める為、今後いろいろな研修会を行って行きたいと思

### 県南支所

#### 支所全体研修会を開催

7月24日、支所活動推進協議会（小林隆志会長）主催による研修会を県南支所にて開催し、44名が参加しました。

今回の研修は、優れた後継牛を安定確保することが経営基盤の強化につながるから、特に分娩から哺育・育成時の事故防止を再確認する事を目的に、日本獣医生命科学大学特任教授の山田裕氏を講師に招き、「今更聞けない子牛の管理」との題目で講演を頂きました。



講師 山田 裕 氏

山田氏から、①子牛が生まれる時の管理（分娩事故防止、適切な分娩介助、生まれた子牛の処置方法）②子牛の下痢（原因と治療）③子牛の肺炎（原因と予防）などを話していただき、参加された方々も、普段からおこなっている子牛管理のなかで、誤ったやり方や今まで聞けなかったことについて再認識することができたとおっしゃいます。

また、質疑応答では、参加者からいろいろな質問が出され、活発な意見交換を行う事ができ有意義な研修会となりました。



山田講師による講演風景



# 米国ワシントン州産 ルーサン1番刈現地レポート

那須高原支所 業務推進課 相馬 信高

6月30日～7月5日までの6日間（現地5日間）米国ワシントン州エレンズバーク及びコロンビアベースンへ2015年度産ルーサン1番刈の現地検品に行っていました。成田を30日夕方出発し、およそ9時間後、米国ワシントン州シアトルに到着しました。シアトルから南東に150kmほど行った所にエレンズバークがあり、その周辺地域にコロンビアベースンがあります。ルーサンの主産地であるコロンビアベースンは米国の北西部に位置し、もともと不毛の



灌漑施設（サークルイリゲーション）



灌漑用水路

土地であったが、コロンビア川からの豊富な灌漑用水を利用し安定的な作物の生産が可能な土地となっております。

2015年度産ルーサン1番刈りについては、刈取りが本格化してきた5月10日頃から断続的な降雨があり、特に5月22日はベースン全域で降雨が記録され、多くの被害が発生しました。サプライヤーによっては70～80%が何らかの雨当たり被害を受けており、被害を避けられたものの中でも大幅な刈遅れとなった物も多く、その為分析値は低く、良品は限定的となっ

ております。例年の降雨被害は50%程度であることから、今年は例年よりも作柄は悪く、1番刈りは非常に厳しい年となっております。あるサプライヤーの話では、ここ20年の中ではワースト2に入るような悪い状況とのことでありました。

そのような良品が限定的な状況であったため、今回の検品については良品の中から選び抜くではなく、酪農家の方が求める品質（成分・茎質・葉付き・色味）を見極めるといふ検品となりました。数少ない良品の中でありましたが、茎質がしっかりしていて葉付き色味も良い、良品のビックベールや3タイムールがありました。渡米前は不安でしたが、酪農家の方に安



茎質・葉付き、色味も良好（3Tie）



茎の太さ、茎質・葉付きも良好（ビックベール）

心して使用していただけるスタックを検品出来たことに大変安堵いたしました。また、ルーサンの2番刈りについては、6月に入ってからほとんど降雨もなく、順調に進捗していますが、北部に位置するエレンズバークでも35℃～40℃の高温を記録しており、暑さの影響で予想以上に生育が早くなっただために、CPが低いスタックや硝酸態窒素が高いスタックが発生している状況でした。1番刈りでも良品が少ないこと、2番刈りも気候の影響で良品の発生が例年より少なくなりそうとの見立てから、2番刈り良品についても1番刈りに近い高値でサプライヤーは生産農家から原料草を買付しております。したがって、2番刈りの良品





圃場で生育中のルーサン

についても、価格は例年よりも差がつかないかもしれない状況になっております。

またコロンビアベースン・エレインズバーグはチモシーの産地でもあります。1番刈りの収穫はほぼ終了しておりますが、収穫期の降雨はなく好条件の中で1番刈りの収穫が終了したが、生育期終盤での降雨に加えウィンドロー時期でのDRYな気候を受け、茶葉やブリーチが増えたことにより、馬用良品は少なく、酪農用良品（プレミアム品）が増えているようです。産地価格は昨年よりも下がったスタートとなっているようです。

今回初めてルーサン検品を経験し、改めて産地の状況を肌で感じ

ることが出来ました。今年は米国の乳価の低迷もあり、米国内酪農家の需要は低調だとしても、中国が低グレード品から高グレード品に買付がシフトしてきており、日本よりも高い価格で買い付けをしております。既に中国のルーサン輸入量は日本を超えている事実があり、今までのように日本で価格相場を作っていくのは難しい状況になってしまっており、中国やUAEの台頭により、米国の意識が日本からどんどん離れてきており、今後は中国・UAEと対等にビジネスを進められるように関係各位と連携を密にとり、米国サプライヤーと対峙していかなければならないと強く感じました。



アラビア語の表記のあるUAE向けのもの



## 業務部

酪農とちぎ青年部本部

ソフトボール大会開催

7月8日、にしなすの運動公園において、青年部（小針勤部長）主催平成27年度ソフトボール大会が開催され、各支部より10チーム約130名が参加し、熱戦を繰り広げました。

当日は雨の予報が出ており、開催が心配されましたが、厚めの雲の隙間から時折太陽の光が差し込む曇り空の下、白熱した試合が展開されました。大会を通し歓声と笑いの中に、相互の親睦を深めることができました。

試合は3ブロックにより行われ、塩原・西那須野チーム、芳賀・河内南部・下都賀チーム、那須Aチームが優勝されました。試合結果は下表の通りです。選手と応援の皆様、大変お疲れ様でした。

## 平成27年度 青年部本部ソフトボール大会結果

開催場所：那須塩原市 にしなすの運動公園

ブロック	優勝	準優勝	第3位	第4位
Aブロック	塩原 西那須野	黒磯A	黒磯B	
Bブロック	芳賀 河内南部 下都賀	那須南	黒磯C	
Cブロック	那須A	那須B	大田原	宇今塩 河市谷

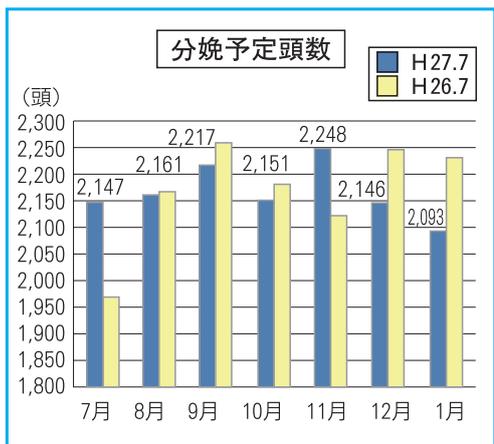
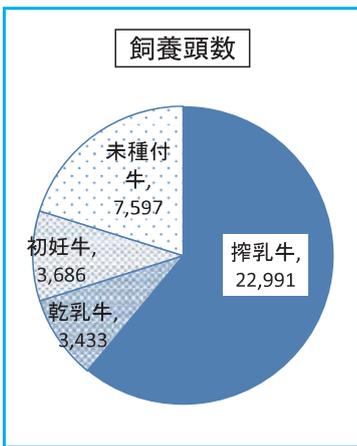
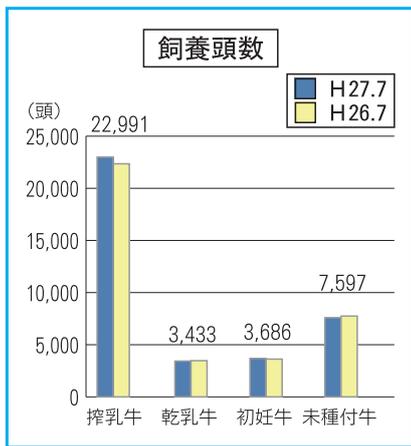


● 乳牛飼養動態調査

7月1日現在の乳牛飼養動態調査を実施した結果が取りまとめられましたので、以下のとおりご報告します。

1 出荷者戸数・飼養頭数について  
前年7月と比較すると酪農中止は8戸(団体公共を除く)となり、出荷者数は前年同月比1・7%減の46戸となりました。廃業の理由は、高齢や後継者がいない3戸、経営転換や他産業への転業1戸、経営不振3戸、死亡・病気療養その他2戸でありました。酪農中止者は9戸ですが、期間中の新規加入が1戸あった為、差引8戸の減少となりました。なお、酪農中止者9名の廃業時の飼養頭数は262頭でした。

2 飼養頭数について  
飼養頭数の内訳は、経産牛は前年



3 分娩頭数について  
平成28年1月までの分娩予定頭数は、前年同時期実績に比べ12頭減少し1万5163頭となりました。す。単月で見ると、8月・9月・10月・11月・12月の5ヶ月が昨年より減少(減少率平均2・9%)、最大は12月の1・6%減少(1万5163頭)です。1月の増加(1・2%)は、最大の増加率(7・4%)を記録しています。7月・11月は大きく増加(7・0%・7・4%)、最も減少率(0・0%)の増(ことから、平成27年度下期は、全体の分娩予定頭数は減ったものの、減少量は少なく、影響は限定的となり、減少全体の増加した分をカバーすると思われる。

7月比2・3%増加し2万6424頭、自家育成牛は前年比2・7%増加し8752頭、外部預託牛は前年比11・1%減の2531頭でした。また、1戸あたりの平均飼養頭数は2・5頭増加し、80・9頭で前年に引き続き増加しています。

なお、搾乳牛は前年より2・9%増加し2万2991頭、乾乳牛は1・1%減の3433頭でした。

育成牛(自家・外部預託含む)の保有率は、0・8%減29・9%で1万1283頭となりました。

乳牛飼養動態調査表

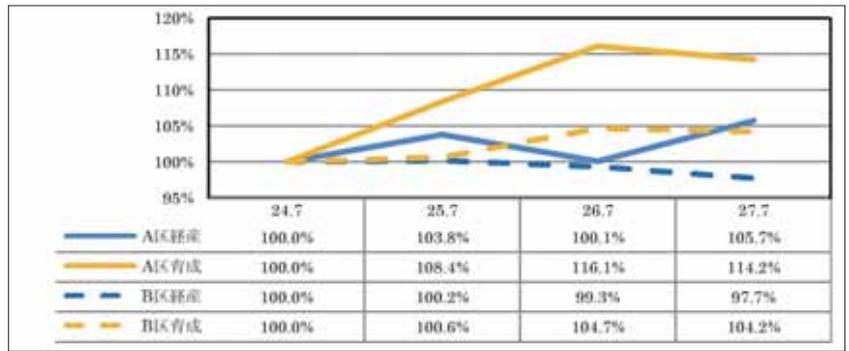
(平成27年7月1日現在)

支所別	調査年月	出荷者数	飼養頭数									育成牛保有率(%)	1戸平均飼養頭数	繁殖和牛経産牛数	月別分娩予定頭数 (カッコ内は内数で性別別精液での分娩。H26.7は同月実績)									
			経産牛			自家育成牛		外部預託牛		合計	7月				8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計			
			搾乳	乾乳	小計	初妊	未種付	初妊	未種付		7月				8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計			
那須高原	H27.7	291	14,783	2,116	16,899	1,858	3,652	545	1,210	24,164	30.07	83.0	531	1,371 (62)	1,346 (71)	1,428 (70)	1,314 (74)	1,428 (83)	1,382 (91)	1,320 (84)	9,589 (535)			
	H26.7	296	14,026	2,047	16,073	1,721	3,590	563	1,452	23,399	31.31	79.1	433	1,189	1,339	1,397	1,349	1,327	1,388	1,395	9,384			
	増減	▲5	757	69	826	137	62	▲18	▲242	765	▲1.24	4.0	98	182	7	31	▲35	101	▲6	▲75	205			
宇都宮	H27.7	80	2,986	415	3,401	580	1,087	110	296	5,474	37.87	68.4	87	244 (15)	293 (36)	298 (26)	306 (24)	288 (22)	269 (27)	281 (23)	1,979 (173)			
	H26.7	83	2,995	516	3,511	598	1,100	103	275	5,587	37.16	67.3	51	241	285	296	288	278	327	288	2,003			
	増減	▲3	▲9	▲101	▲110	▲18	▲13	7	21	▲113	0.71	1.1	36	3	8	2	18	10	▲58	▲7	▲24			
県南	H27.7	95	5,222	902	6,124	467	1,108	126	244	8,069	24.10	84.9	23	532 (9)	522 (8)	491 (12)	531 (8)	532 (13)	495 (7)	492 (9)	3,595 (66)			
	H26.7	95	5,331	907	6,238	494	1,019	142	312	8,205	23.97	86.4	29	539	543	566	544	517	531	548	3,788			
	増減	0	▲109	▲5	▲114	▲27	89	▲16	▲68	▲136	0.13	▲1.4	▲6	▲7	▲21	▲75	▲13	15	▲36	▲56	▲193			
小計	H27.7	466	22,991	3,433	26,424	2,905	5,847	781	1,750	37,707	29.92	80.9	641	2,147 (86)	2,161 (115)	2,217 (108)	2,151 (106)	2,248 (118)	2,146 (125)	2,093 (116)	15,163 (774)			
	H26.7	474	22,352	3,470	25,822	2,813	5,709	808	2,039	37,191	30.57	78.5	513	1,969	2,167	2,259	2,181	2,122	2,246	2,231	15,175			
	増減	▲8	639	▲37	602	92	138	▲27	▲289	516	▲0.65	2.5	128	178	▲6	▲42	▲30	126	▲100	▲138	▲12			
団体	H27.7	2	27	8	35	5	8	0	0	48	27.08	24.0	21	5 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	4 (0)	1 (0)	15 (0)			
	H26.7	3	29	13	42	3	11	0	0	56	25.00	18.7	3	4	3	1	3	2	5	4	22			
	増減	▲1	▲2	▲5	▲7	2	▲3	0	0	▲8	2.08	5.3	18	1	▲2	1	▲1	▲2	▲1	▲3	▲7			
合計	H27.7	468	23,018	3,441	26,459	2,910	5,855	781	1,750	37,755	29.92	80.7	662	2,152 (86)	2,162 (115)	2,219 (108)	2,153 (106)	2,248 (118)	2,150 (125)	2,094 (116)	15,178 (774)			
	H26.7	477	22,381	3,483	25,864	2,816	5,720	808	2,039	37,247	30.56	78.1	516	1,973	2,170	2,260	2,184	2,124	2,251	2,235	15,197			
	増減	▲9	637	▲42	595	94	135	▲27	▲289	508	▲0.64	2.6	146	179	▲8	▲41	▲31	124	▲101	▲141	▲19			

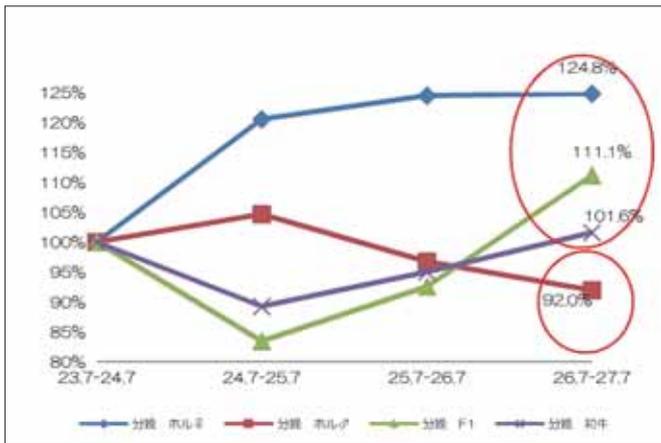


と比べ明らかな差異が出ています。

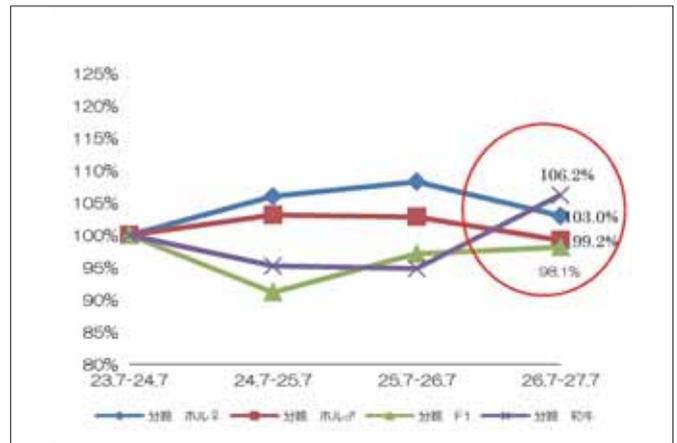
次にH23年7月からH24年7月までの分娩頭数を100とした時のH27年7月までの各年の分娩実績推移(下グラフ③)です。A区はホル♀の分娩が120%以上で推移していますが、注目すべきはホル♂とF1の分娩率の変化です。ホル♂が92%まで減少しその減った穴をF1・和牛ET産子が埋めているといった状況で、ホル♀を確保しながらホル♂がうまくF1・和牛ETへとシフトしており、副産物の強化に繋がっています。



グラフ② 飼養頭数増減率の推移



グラフ③ 分娩実績増減 A区分



グラフ③ 分娩実績増減 B区分

### Ⅲ 後継牛保持と副産物強化の両立

近年の酪農状勢を見ると酪農家戸数の減少に伴う経産牛頭数の減少に加え、昨今の猛暑の影響等もあって、生乳生産基盤の確保が喫緊の課題となっております。ご存じのとおり和牛素牛不足からくる肉相場の高騰が続く中、今後は全国的な生乳生産量の減少が予想されています。

今回の結果については性判別精液の有意性を予想以上に見て取ることができましたと思います。性判別精液をうまく活用することで、2年後の更新頭数を確保すると同時に、積極的なF1の生産、または受精卵利用等によって副次生産部門の強化を図れ、牛群を計画的にコントロールすることが可能になります。

仮に一年間で15頭のホル♂(現在の那須市場相場で約8万円)がF1(那須市場相場で♂♀等比で約21万円)になるだけで195万円の収益増となり、F1のY判別精液を同時に使用すると(那須市場相場F1♂約25万)255万円の増、Y判別のIVF卵(那須市場相場約42万)で510万円の収益増です。種代や卵代、移植費などの経費は増えますがそれ以上に副産物収益は上がります。

実際に、一昨年より性判別精液と体外受精卵IVFをうまく活用し育成牛を増やししながら収益を伸ばしている牧場があります。この牧場は未経産牛にはすべて性判別精液を使用し、空いた胎(特に経産牛)にIVF卵を移植、場合によっては家畜改良事業団バイテクセンターの新鮮卵も利用しています。生まれたIVF産子は那須市場において45万で取引されました。

最後に、性判別精液使用において、空胎日数が伸びてしまえば性判別精液のメリットも薄れることから、その利用方法、さらに日頃の飼養管理がより大切になってきます。安定的に後継牛を保持しながら、効率良く副産物を得て生産基盤強化を図ることが性判別精液の最大のメリットであることから、その特性を理解の上、引き続きご活用下さい。



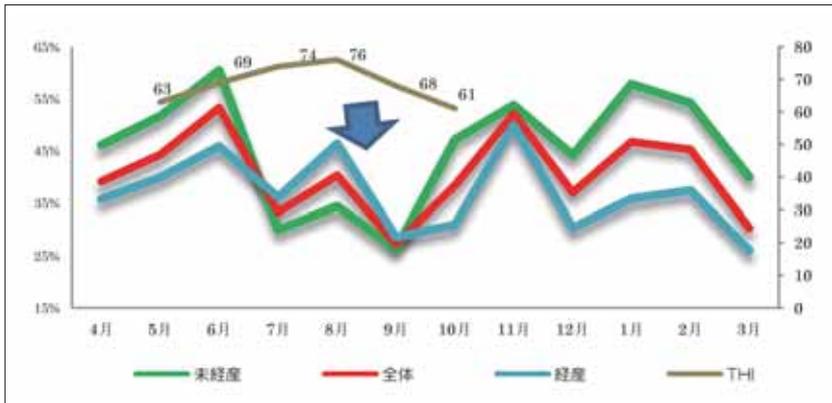
# 平成26年度「後継牛安定確保対策事業」集計結果

## I 実績本数・受胎率について

平成26年度は報告本数1,597本で前年対比107.9%増、助成総額5,473千円（前年5,169千円）となりました。

妊娠鑑定が明確なものについて、受胎率は未経産牛47.4%、経産牛37.2%、全体で41.9%という結果です。

（昨年度：報告数1,476本、未経産受胎率44.9%、経産牛33.3%、全体で38.6%）



いつものように月別受胎率を見ましょう。青色が経産牛、緑色が未経産牛、赤色が合算の受胎率（左目盛）を表しています。さらに灰色の線で月平均THI（温湿度指数）を示しました。（※宇都宮市の月平均気温・湿度から算出）。THI値が72を超えると暑熱によるストレスを受けるようになりますが、月平均THI値が6月に69を示した後、

受胎率の低下が見られ、平均のピークが8月の76になった後、受胎率は合算で27.3%にまで落ち込んでいます。暑熱期の使用を控えるか、もしくはヒートストレスに強いとされるET利用が有効です。

昨年も記載しましたが、①未経産牛への適期授精②不受胎が続いたときは速やかに通常精液に戻す③夏場の使用は控える④未経産牛については無理に深部に注入せずとも受胎は期待できる（子宮損傷のリスクを減らす）等が性判別精液とうまく付き合うコツです。「マニュアルに沿った融解手順を守ること」、「授精適期を守ること」、「繁殖能力の高い雌牛に授精すること」など、基本的なことですが、確実に受胎率を向上させるために適切な条件を整えることも重要です。特に、①については受胎率を考慮すると強く推奨します。

さらにAⅠ後の精子生存期間や、授精機能保持時間も普通の精液と比べて短いことから、「発情のより後半にAⅠ」すると受胎率が向上するという報告もあり、また、経産牛については「モ5号」を用いて深部注入を行うことも受胎率向上の一つの手法になります。

## II 性判別精液の成果はいかほど？

平成24年度から始まったこの「後継牛安定確保対策事業」ですが、すでに3年が経過し27年度も継続となっておりますが、積極的に利用してきた牧場では実際にどのような変化があったか、H27年度7月度の動態調査も纏まりましたので、ここで経過を見てみましょう。

まず、3年間積極的に性判別精液を使用し続けた牧場をA区としたとき、A区牧場が68戸ありました。その他の牧場をB区としたときのそれぞれの飼養頭数の変化と年間のホル♀、ホル♂、F1、和牛ET産子の分娩頭数を比較してみます。（性判別精液の影響だけを見るためにH24からH27までの脱退者、加入者を除いた数値になっています）

グラフ②に飼養頭数の増減率をまとめてみました。実線がA区牧場、点線がB区牧場です。H24年7月時の頭数を100としたときの増減率です。

A区については経産牛で105.7%、育成牛114.2%の増加率となっており、B区の97.7%、104.22%



# 生乳販売課

平成27年7月度の組合生乳生産量は、昨年同月乳量と比較し107.0%（1万9760t）と、45ヶ月連続し前年を上回る堅調な生産状況です。また、累計の受入乳量は、那須高原支所5万2189t（前年比111.1%）、宇都宮支所1万0690t（前年比98.5%）、県南支所1万7643t（前年比99.5%）、合計で8万0523t（前年比106.6%）となり、那須高原支所の生産量が大きく前年を上回りました。また、県南支所においては、6、7月は前年を上回り回復基調となっております。

出荷者数は、前年同月より10戸減の467戸（内、学校は2校）でした。

また、7月度及び年平均乳質は、脂肪率、無脂固形分率については前年並みでしたが、細胞数は今年1月から前年を上回る状況が続いています。

尚、7月迄の累計不合格件数は237件となり、前年（177件）を上回り一昨年並みの発生件数となりました。

関東生乳販連の6月総受託乳量は、前年比101.2%と、平成24年10月以降32ヶ月振りに、1135t程増加し、累計でも100.1%、209t増の状況です。

6月の用途別の販売数量は、飲用向けが前年比101.6%と前年を上回りましたが、加工率は5.4%と若干前年を上回る値です。6月迄の累計値については、飲用

関東生乳販連用途別販売数量

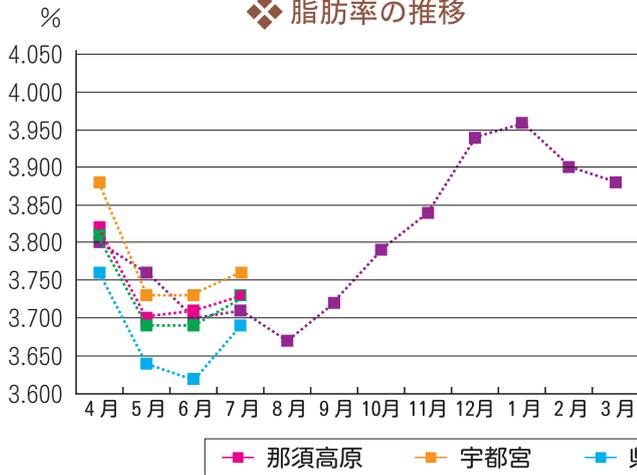
(単位：kg・%)

用途	6月実績	前年実績	前年比	累計実績	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け	73,683,012	72,529,599	101.6	218,240,055	214,063,148	102.0
(うち学校向け)	13,906,467	13,375,812	104.0	35,470,881	34,886,834	101.7
はっ酵乳向け	13,298,809	13,590,402	97.9	39,693,028	40,804,108	97.3
特定乳製品向け(加工)	5,066,758	4,790,627	105.8	26,872,956	29,679,909	90.5
(うち委託加工向け)	0	0	-	0	0	-
生クリーム向け	1,768,674	1,777,780	99.5	5,531,980	5,610,698	98.6
チーズ向け	60,668	54,475	111.4	189,521	160,567	118.0
全乳哺育向け	0	0	-	0	0	-
総受託乳量	93,877,921	92,742,883	101.2	290,527,540	290,318,430	100.1
加工比率	5.40	5.17	-	9.25	10.22	-

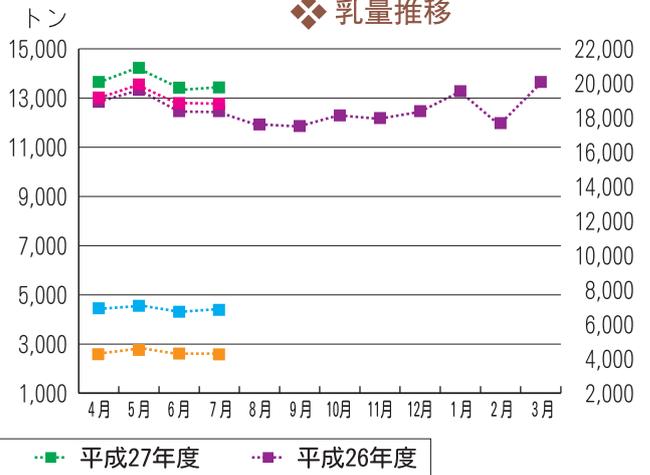
向けが102.0%と前年度を上回り、加工率についても9.25%と前年を下回る状況です。また、全国の生産量（6月現在）は前年比100.6%と2年振りに前年を上回りました。主に北海道101.1%、関東生乳販連101.2%、九州生乳販連101.6%と主産地の増加が影響し増加になりましたが、都府県は99.9%と依然として減少が続く状況です。

尚、直近の生産量・乳質、関東生乳販連の用途別販売数量は別表のとおりとなっております。

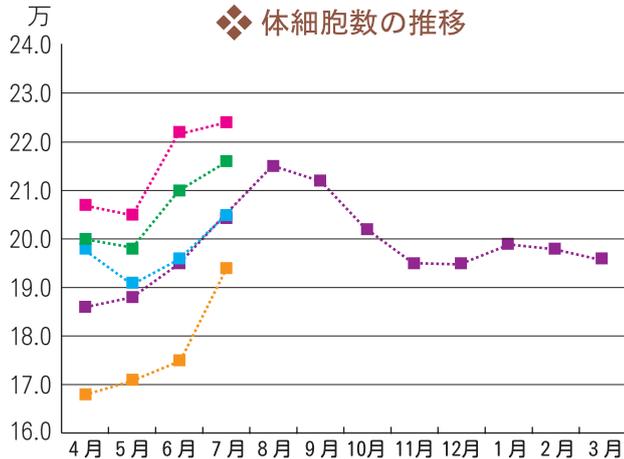
◆ 脂肪率の推移



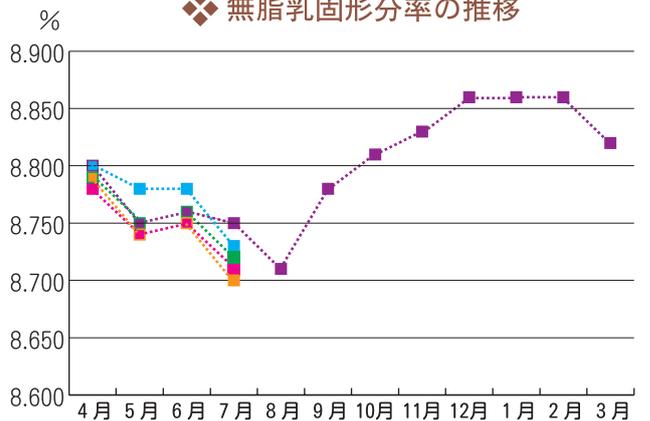
◆ 乳量推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



# 日本酪農危機突破総決起大会



ための決議」、第3号議案「実行運動について」以上3議案が満場一致で採択されました。

また、大会スローガン採択、ガンバロー三唱を経て集会は終了しました。

午後2時より、第3号議案の「実行運動」に基づき要求実現に向け炎天下のなか自民党本部から日比谷公園まで、「国土保全のため酪農を守ろう!」、「T P Pでは

国産牛乳・乳製品を守ろう!」等シュプレヒコールを挙げデモ行進を行いました。

当組合からは、常勤・非常勤役員はじめ、青年部・女性会本部役員、各地域酪農組合役員等総勢39名の方々が参加しました。皆様大変お疲れさまでした。

## 《大会スローガン》

1. T P P交渉での自民・国会決議の遵守を貫こう!
1. 酪農家の所得向上と所得安定制度を確立しよう!
1. 飼料価格安定対策と農地直接支払制度を拡充しよう!
1. 酪農生産基盤を立て直し、生乳の安定供給を目指そう!
1. 畜産クラスター事業の十分な予算を確保しよう!
1. 国土保全・多面的機能を持つ酪農を守ろう!

日本の酪農を守る為、これからも、皆が一致団結し大きな力に変えて頑張りましょう!

7月31日、正午より自民党本部ホールにおいて日本酪農政治連盟主催の「日本酪農危機突破総決起集会」が行われ、全国より酪農家並びに関係者約1000人が参加しました。

佐々木委員長の挨拶の後、議事に入り、第1号議案では、T P P交渉に関する特別決議「自民党・衆参国会決議の遵守を貫こう!」、第2号議案では「日本酪農を守る



# 理事会だより

## 5月度理事会 (5月29日)

### 報告事項

- (一) 組合員の加入脱退について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合資金貸付について
- (四) 外部出資(系統外)の減口について
- (五) 組合ブルー乳価について
- (六) 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について
- (七) 関東生乳販連情報について
- (八) 平成26年度事業実績について
- (九) 剰余金処分案について
- (一〇) 固定資産取得・処分計画の変更について
- (一一) 平成26年度乳質共励会表彰について
- (一二) 平成26年度生産現場の環境整備・美化コンクール表彰について
- (一三) 4月度事業実績について
- (一四) 平成27年度酪農生産基盤確保・強化緊急支援事業等の対応について
- (一五) 目的積立金の取り崩しについて
- (一六) 外部団体等の役員改選について
- (一七) 関連法人会社の株式処分について
- (一八) 組合と理事との契約について

## 6月度理事会 (6月30日)

### 報告事項

- (一) 業務経過報告について
- (二) 組合資金貸付について
- (三) 旧県南支所敷地整備工事に係る入札結果について
- (四) 組合ブルー乳価について
- (五) 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について

### 協議事項

- (一) 関連会社(栃木明治牛乳株式会社)の業務報告について
- (二) 関東生乳販連情報について
- (三) 5月度事業実績について
- (四) 理事報酬の配分について
- (五) 外部団体等の役員改選について
- (六) 役員賠償責任保険の更新について
- (七) 夏季手当の支給について
- (八) 酪農ヘルパー傷病時利用互助会規約の一部改正について

## 7月度理事会 (7月29日)

### 報告事項

- (一) 組合員の加入脱退について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合資金貸付について
- (四) 夏季手当の支給について
- (五) 組合ブルー乳価について
- (六) 乳牛飼養動態調査結果について
- (七) 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について
- (八) 子会社等の第1四半期事業実績について
- (九) 関東生乳販連情報について

### 協議事項

- (一) 6月度及び第1四半期事業実績について
- (二) 第14回通常総会時要望事項に対する見解について
- (三) 固定資産の取得について

## 《平成27年度支所事業》

各支所において、支所活動推進協議会が開催され以下の行事が決定いたしました。

### 【那須高原支所】

- 6月12日 花の苗配布
- 8月6日 野外パーティー
- 那須町共同利用模範牧場で開催。
- 11月 支所研修会(講演会)
- 2月 支所ボウリング大会

### 【宇都宮支所】

- 7月30日 酪農セミナー
- 演題「個人経営のための経営継承・経営移譲について」
- 8月7日 支所全体交流会
- 支所前広場で開催。
- 8月3日(5日) 生乳生産チェックシート記帳確認
- 及び牛舎周辺環境美化巡回。
- 10月 役員会開催
- 10月(11月) 花の苗配布
- 12月上旬 生乳生産チェックシート記帳確認及び牛舎周辺環境美化巡回。

### 【県南支所】

- 7月24日 全体研修会
- 講演内容「今更聞けない仔牛の管理」
- 講師 日本獣医生命科学大学特任教授 山田 裕氏
- 11月 花の苗配布
- 12月9日 全体交流会
- 税務申告学習会
- 組合員の根本壽一氏(ソリマチ農業ソフト認定アドバイザー)と石川明氏の両名が、記帳指導及び青色申告決算書の作成指導を年度内に随時実施。また、三月上旬、組合顧問税理士による確定申告相談会も実施予定。

## 酪農とちぎ農業協同組合 本所事務所移転のお知らせ

栃木明治牛乳株式会社、工場拡張工事に伴い、左記のとおり本所事務所を移転いたします。

移転先 宇都宮市平出工業団地6-1-7 (畜産会館内1階)

業務開始日 平成27年9月28日(月)

※電話番号及びファックス番号は、変更ありません。

6月度 ホクレン初妊牛市場成績 (単位：千円 (税込))

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率 (%)	平均価格	(そのうちET牛)		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
南北海道	6月5日	90	71	78.9	562	21	17	743
北見	6月8日	320	226	70.6	528	0	0	0
十勝	6月9日	623	468	75.1	579	116	86	719
釧路	6月10日	209	162	77.5	564	2	2	728
根室	6月11日	402	277	68.9	562	16	14	740
豊富	6月17日	220	163	74.1	554	11	2	623
合計		1,864	1,367	73.3	561	166	121	723
前月		2,196	1,735	79.0	572	185	154	737
前年同月		1,911	1,325	69.3	537	198	149	642

初妊牛の今後の動向は、9月下旬から10月分娩が中心となります。価格については、府県は夏場の時期となり引合いが減少するものと見込まれるものの、道内では生乳生産量の確保を目的とした導入が堅調な為、引き続き高値安定で取引されると思われます。導入を希望される方は、分娩腹の条件、価格等に十分余裕を持ってお申込み下さいませよう、宜しくお願い申し上げます。

6月度 県内家畜市場成績 (単位：円 (税込))

市場名	種別	出場頭数	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
	F 1雄	142	141	61	308,880	24,840	246,807	▲4,366
	F 1雌	84	84	54	268,920	130,680	199,594	▲8,511
館林(6/27)	ホルス雄	0	0	0	0	0	0	▲77,400
	F 1雄	11	11	100	346,680	270,000	327,927	19,551
	F 1雌	9	9	100	302,400	237,600	285,600	49,144

素牛相場や枝肉相場等の動向で価格も影響しますが、今回の初生牛の取引価格は前回から比較し、那須市場では低値相場・館林市場では高値相場で推移しています。

